

弁政連京都支部ニュース

弁政連

第7号

2020年4月30日発行

日本弁護士政治連盟京都支部

ごあいさつ

日本弁護士政治連盟京都支部 支部長 浜 垣 真 也

1. 2020年度（令和2年度）の弁政連京都支部長に就任した浜垣です。弁政連は、司法に携わる在野法曹の中心的団体である弁護士会と国会議員、京都府・市議員等立法府を運営する代議員の方々との架け橋となり、弁護士会の求める基本的人権の擁護と社会正義の実現に向けて協力関係を築いてゆくべく活動をしています。

2. 2004年（平成16年）に設立されて以降、16年目に入りました。他士業の政治家への働きかけがますます活発になってきている中、弁護士会も弁政連を立ち上げ、立法・行政担当者からむしろ距離を置くべきではなく、積極的に要望すべき点は要望し、理解をしてもらいたいところは、レクチャーや懇談をして理解してもらう姿勢こそ大事なことと考えて発進した次第です。

一昨年からそれまでの各政党に対する一括的な場での説明会ではなく、有力政党との個別対談に力点を置いて活動して参りました。

昨年度は、自民党、立憲民主党、国民民主党、公明党、共産党の議員さんと2時間ずつ議題を選んで忌憚のない意見交換の場を持つことができました。

少年法適用年齢引き下げ、弁護士による出張授業への公的補助、国費による被害者支援弁護士制度の導入等々をテーマとしました。議員さんらからも活発に意見が出て、有意義な会合でした。

3. 他の士業等の政治団体と基本姿勢として異なる点として、弁政連は、一党一派へ偏しないとのスタンスです。もとより弁護士会は強制加入団体であり、さまざまな意見が存在し、それを尊重するのが存在使命だと思っている団体です。かような立場を確固たるものとして立法・行政に対し、要望を実現させるべく働きかけてゆく団体です。

若手の方々にも、弁政連の重要性をご理解いただきたく存じます。全国的にも弁政連加入率は他団体と比較して圧倒的に少ないことが悩みです。少しずつでも加入者を増やして声を大きく出せる団体に育ててゆきたいです。

今年度頑張りますので、皆様も傍観せず、積極的に加入し、活動に参加しましょう。議員の方々とは接触し、直に話しを交すことはとてもタメになりますし、また楽しいですよ。

本田太郎衆議院議員へのインタビュー

2020年（令和2年）1月17日、京都弁護士会館において、浜垣副支部長が、京都弁護士会所属で自民党衆議院議員の本田太郎氏にインタビューしました。

浜垣副支部長：

京都府議1期目で衆議院に立候補されたのには、何かきっかけがあったのでしょうか。

本田議員：

当時、私の府議会の選挙区であった宮津市・与謝郡を含む衆院5区の衆議院議員だった谷垣禎一先生が引退を表明されましたので、予期せぬタイミングでしたが、後継者として選んでいただきました。

浜垣副支部長：

谷垣先生も弁護士から議員になられた方ですが、法曹から議員になった先輩として、谷垣先生から何かアドバイス等がありましたか。



本田議員：

法務大臣を務められたこともある谷垣先生からは、国政の場における法務行政の重要性という話をお聞きしました。外務大臣、経産大臣、厚生労働大臣等のほうが法務大臣以

上より報道されることが多く、重要な役割を担っていると思われがちです。しかし実は、法務行政というのは法律による行政という観点からも非常に大事で、地味であるけれども、国家の根幹に関わる。例えば、非常に権力を持つ主体である検察の所管です。法務省はそういう意味で非常に重要な官庁だと思います。



浜垣副支部長：

立法時、どのような点を意識しておられますか。

本田議員：

科学技術の進展が非常に早くて、改正も含め、なかなか法律が科学技術の進展に追いついていないという現実が多いと思います。今後さらに5G関連、AI等によって、今までは必要だった規制が不要になることも多々あります。逆もあると思います。また、グローバル企業、特にプラットフォーマーには、税の問題でもどう規律していったらいいのかという問題は、まだ議論の途中です。そういった問題をしっかり律していくには当然法律の改正が必要になります。最新情報を政治家として機敏にキャッチをしながら法律に反映していくということが、法曹出身の政治家としては求められると思いますし、そこ

に優位性があるのかなというように思っています。

浜垣副支部長：

法曹出身の優位性と言うのでしょうか。弁護士経験が役に立ったと思うことはありますか。

本田議員：

多々ございます。どのように役立てたかという点ですが、少なくとも、新しく出てきた法律や改正された法律について、法曹出身でなくても国民生活のニーズに応じて法律が改正されたことまでは理解できる。じゃあ具体的に法律のどこがどう変わってニーズに対応したか、一方でどういう弊害が出てくるのかとか、ですね。法律家は常に反対利益みたいなものが気になってそこに目が自然といくんですが、政治だけをやっているとなかなかそこには目がいかない。そういう優位性は感じています。

浜垣副支部長：

議員になられてから、どのような政策課題に重点的に取り組んでおられますか。また取り組みたい政策課題はありますか。

本田議員：

私の重点課題は地方の活性化、いわゆる地方創生です。東京一極集中が過度に進んでおりまして、特に私の住んでおります宮津市とかは、かなり危機感を持っております。人口が少なくなる、働き手がいなくなる、コミュニティが崩壊してくる、ということがございまして、宮津市だけではなく、全国各地の地方が同じ悩みと恐れを抱いております。人口が少な過ぎると、行政サービスを税収で賄えない、民間、例えば路線バスが廃線になる等の悪循環が実際に起きつつあります。全国で同じことが起こり始めると、本当に地方

が疲弊してしまっていて、いわゆる東京を中心とした大都市のみで構成されるような国家になりかねないと思います。そうすると伝統文化も消失していきますし、国力としても、人口減少も相まってかなり厳しいことになっていくと思います。そこになんとか歯止めをかけて、地方が、少なくとも従前の活気を保てるような政策を進めていきたいと思っております。

浜垣副支部長：

会員数は多くはないですが、北部を中心に、こういうかたちで弁護士会会員と協力できれば、というアイデア等はおありでしょうか。

本田議員：

政治家と弁護士会直接というよりは、例えば、商工業に関する法律問題であれば、我々政治家は、地方の商工業の施策をつくるにあたり、商工会とか商工会議所のような公的団体の意見を聞いてやっていますので、間にそういう団体を挟んで、実際に商工業に従事する方々の法的悩みに対応するなどが考えられます。

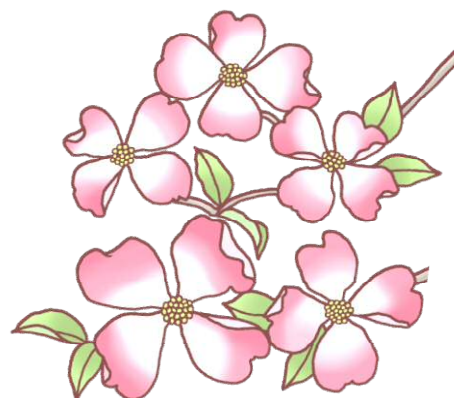
浜垣副支部長：

弁護士、特に若手弁護士に対して、今のお立場として何か伝えたいことはございますか。

本田議員：

私もそうですが、弁護士は法律に従って仕事を行い、裁判を行うわけですが、法律はルールですので従わなきゃいけないわけですが、100%正しいとは限らないという時があります。判例もそうです。弁護士が法律を変えることはなかなかできない。そこで、社会をよくするための法改正を求める善い意味でのロビーイングとか、立法府への働きかけ

といったものを弁護士会として考えてもらってよいのではないかと思います。また、特に判例とかは、裁判の現場において、何か時代の変更や価値観の変容等があった時に変えるべく、果敢に戦う姿勢を持ってほしいと思います。



京都選出の国会議員、府会議員、京都市会議員の各政党議員団 との意見交換会

弁政連京都支部は、2004年（平成16年）3月に設立以来、弁護士会の活動や課題を議員の方々に知っていただくとともに、議員の方々からのご意見を弁護士会の活動の参考にさせていただくという目的のもと、国会議員、府議会議員、京都市会議員の皆様と京都弁護士会との意見交換会を実施してきました。昨年度からは、互いに気兼ねのない意見を述べやすいものにしようと、政党毎に開催するという形式に改めて開催したところ、各政党にも好評を得られたことから、本年度も昨年と同様、政党別意見交換会を開催しました。

2019年（令和元年）8月10日に自由民主党京都府支部連合会、10月19日に立憲民主党京都府連合、12月14日に国民民主党京都府総支部連合会、2020年（令和2年）2月15日（台風等の影響で当初の予定から変更になりました。）に公明党京都府本部、および2月22日に日本共産党京都府委員会と合計5回の意見交換会を開催しました。

それぞれ、後述する議員の皆様にご出席いただき、弁護士会からは、三野会長を初めとして、副会長、担当委員会の説明員に出席してもらいました。意見交換会ですので、弁護士会から一方的に主張することを避け、テーマ選定及び報告時間を厳選し、できる限り議員の方々からのご意見を伺うことを意識して実施いたしました。

全ての政党に共通するテーマとして、少年法適用年齢引き下げを選定いたしました。このほか、自由民主党とは、国費による被害者支援弁護士制度の導入、京都医療少年院建て

替えについて、立憲民主党及び国民民主党とは、弁護士による出前授業への公的補助、同性婚の法制化及び自治体によるパートナーシップ証明、公明党は国費による被害者支援弁護士制度の導入および最低賃金の引き上げ、日本共産党とは、観光需要の増大と観光地の保全及び市民生活の調和、弁護士による出前授業への公的補助というテーマで意見交換を行いました。これらのメインテーマ以外にも、京都府と京都弁護士会で取り組んでいる、京都性暴力被害者ワンストップ相談（通称「京都SARA」）について報告をしました。

各政党からは、成人年齢の各視座からの意見交換（自由民主党）、長時間労働への問題（立憲民主党）、法教育に関連するいじめ対策への取り組み（国民民主党）、京都府北部地域における京都SARAの機能拡充（公明党）、京都府留置施設視察委員会の委員選任（日本共産党）など、各政党・各議員の方々が普段から気になっている問題点について、率直な質問や意見をいただくことができました。

昨年に続く政党別意見交換会でしたが、気兼ねのない意見交換となり、率直かつ活発な意見交換をすることで議論が深まったと感じます。また、国政、府政及び市政のそれぞれにおいて取り上げたテーマが現在どのような状況にあるか伺うことができました。議員の方々から、弁護士会に対する要望や指摘をいただけたことで今後の会務活動につながる有益な機会となりました。

【意見交換会出席者】（開催日順）

自由民主党：

二之湯智参議院議員、安藤裕衆議院議員、
木村弥生衆議院議員、
二之湯真土府議会議員、
能勢昌博府議会議員、古林良崇府議会議員、
岸本裕一府議会議員、北原慎治府議会議員、
田島祥充府議会議員、吉井あきら市議員、
島本京司市議員、西村義直市議員



立憲民主党：

福山哲郎参議院議員、
山本わか子衆議院議員、田中健志府議会議員



国民民主党：

泉健太衆議院議員、田中美貴子府議会議員、
中野洋一市議員、河本隆志京田辺市議会議



公明党：

竹内譲衆議院議員、山口勝府議会議員、
諸岡美津府議会議員、湯浅光彦市議員



日本共産党：

穀田恵二衆議院議員、井上哲士参議院議員、
倉林明子参議院議員、
原田完府議会議員、光永敦彦府議会議員、
井坂博文市議員、西野佐知子市議員



弁護士会：

三野岳彦会長、金井健作副会長、
渡辺輝人副会長、畑中宏夫副会長、
池田良太副会長

弁護士会説明員：

小嶋敦会員、石地春樹会員、森元宙斗会員、
高橋みどり会員、福山勝紀会員、仲晃生会員、
戸田洋平会員、伊藤知之会員、吉田雄大会員、
神子貴士会員、舟木浩会員、森田浩輔会員、
石井一旭会員

弁政連：

白浜徹朗支部長、浜垣真也副支部長、
日下部和弘事務局長、山地敏之事務局次長、
浅岡美恵理事、小川達雄理事、木内哲郎理事、
吉田誠司理事

2019年度 事業報告

日本弁護士政治連盟 京都支部

1	2019年4月11日(木)	4/7(日)の統一地方選(京都府議選・京都市議選)において、「推薦状」を発行したうちの当選者へ当選祝い文書を送付 京都府議選…推薦状発行52名、うち当選者39名 京都市議選…推薦状発行55名、うち当選者41名
2	2019年4月11日(木)	定期総会を開催
3	〃	第1回理事会を開催
4	2019年4月22日(月)	4/21(日)投票の向日市長選挙、京田辺市長選挙、木津川市長選挙の当選者に祝電を打電
5	2019年4月24日(水)	京都弁護士会 2019年度役員等披露宴に1名出席
6	〃	京都支部ニュース第6号を発行、京都弁護士会役員等披露宴で配付、会員等に配付
7	2019年5月9日(木)	理事会を開催
8	2019年6月13日(木)	理事会を開催
9	〃	今夏実施の参議院議員選挙につき、推薦状発行を打診した立候補予定者で希望回答のあった3名に、推薦状を発行
10	2019年6月15日(土)	自民党京都府連主催の「参議院通常選挙・総決起大会」に2名出席
11	2019年6月25日(火)	6/23(日)投票の南山城村長選挙の当選者に祝電を打電
12	2019年7月10日(水)	公明党京都府本部主催の「公明党政談演説会」に1名出席
13	2019年7月11日(木)	理事会を開催
14	2019年7月22日(月)	7/21(日)投票の参議院選挙当選者(西田昌司氏、倉林明子氏、井上哲士氏、山本香苗氏)あて祝電を打電
15	2019年8月8日(木)	井手町長選挙(無投票)の当選者に祝電を打電
16	〃	理事会を開催
17	2019年8月10日(土)	「自由民主党京都府支部連合会と京都弁護士会との意見交換」を開催
18	2019年9月12日(木)	理事会を開催
19	2019年10月10日(木)	理事会を開催
20	2019年10月12日(土)	「公明党京都府本部と京都弁護士会との意見交換会」を開催予定のところ、台風により延期
21	2019年10月19日(土)	「立憲民主党京都府連合議員団と京都弁護士会との意見交換会」を開催
22	2019年10月21日(月)	10/20(日)投票の亀岡市長選挙、精華町長選挙の当選者に祝電を打電
23	2019年11月14日(木)	理事会を開催
24	2019年11月17日(日)	自民党京都府連主催の「政経文化懇談会」に2名出席
25	2019年12月8日(日)	立憲民主党京都府連合主催の「第2回定期大会」に1名出席
26	2019年12月12日(木)	理事会を開催
27	2019年12月14日(土)	「公明党京都府本部と京都弁護士会との意見交換会」を開催予定のところ、延期
28	〃	「国民民主党京都府総支部連合会議員団と京都弁護士会との意見交換会」を開催
29	2020年1月8日(水)	公明党京都府本部主催の「2020年公明党新春年賀会」に1名出席
30	2020年1月9日(木)	理事会を開催
31	2020年1月17日(金)	2020年4月発行の弁政連京都支部ニュース第7号へ掲載の本田太郎衆議院議員へのインタビューを実施
32	2020年1月20日(月)	京都弁護士会「新入会員研修」において、弁政連への入会説明を実施
33	2020年2月3日(月)	2/2(日)投票の京都市長選挙の当選者に祝電を打電
34	2020年2月13日(木)	理事会を開催
35	2020年2月15日(土)	「公明党京都府本部と京都弁護士会との意見交換会」を開催
36	2020年2月17日(月)	2/16(日)投票の八幡市長選挙の当選者に祝電を打電
37	2020年2月22日(土)	「日本共産党京都府委員会議員団と京都弁護士会との意見交換会」を開催
38	2020年3月12日(木)	理事会を開催
39	2020年3月16日(月)	3/15(日)投票の笠置町長選挙の当選者に祝電を打電

2020年度(令和2年度) 役員名簿

任期：2020年4月1日～2021年3月31日

		氏名
	支部長	浜垣真也
	副支部長	木内哲郎
	事務局長	吉田誠司
	事務局次長	山地敏之
1	理事	浅岡美恵
2	〃	浅野則明
3	〃	小川達雄
4	〃	吉川哲朗
5	〃	古家野彰平
6	〃	後藤真孝
7	〃	橘英樹
8	〃	谷口直大
9	〃	畑中宏夫
10	〃	三野岳彦
	監事	豊田幸宏
	〃	船橋恵子

	顧問	谷口忠武
	〃	田中彰寿
	〃	白浜徹朗

編集後記

事務局長 吉田誠司

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。感染者は急増しており、全国に緊急事態宣言が出されました。経済活動はほとんど停止し、日本でも医療崩壊の危機に直面しています。かつてないスピードで情勢は変化しており、東京五輪が延期になったニュースなど、もはや大昔の出来事のように感じます。こうした緊急事態に最前線で即応できるのはまずは政治しかありませんが、我々弁護士のところにも、中小企業や労働者からの深刻な相談、危機や不安に便乗した消費者被害の相談が増えてきています。家賃の猶予などの特別な立法も話題となっています。弱い立場の人、声の小さな人が忍耐を強いられており、声を上げる余裕すらない人々も少なくありません。緊急事態がいったん収束した後には（あるいは長期化した場合にも）、こうした人々への「しわ寄せ」を元に戻す必要が出てくるでしょう。まさにいま、弁護士と政治を結ぶ弁政連の活動はいよいよ重要性を増しています。本年度以降は、いっそう緊密に連携をして、適切かつ迅速な対処をしていきたいと思っております。